

〔資料〕

昭和高等商業学校の主要刊行物と記事目録

吉田 建一郎

大阪経済大学の前身である昭和高等商業学校は、1932年創立の浪華高等商業学校が改称されて、1935年に設立された¹⁾。本稿は、所在が確認できる昭和高等商業学校の主な刊行物の一覧と記事目録を示すものである。

本稿で紹介する刊行物のうち、『昭和高等商業学校研究部報』と『昭和高等商業学校論叢』については、過去に記事目録が作成されているが²⁾、記事の主題に基づいて整理された「分類目録」の体裁となっている。そこでこの2誌について、本稿では雑誌の号数の順（刊行年月順）に整理したものを掲載する。

（1）『昭和高等商業学校研究部報』

第1輯（1937年2月）

- 研究部報の発刊を祝す（黒正巖）
- アウトルキイの思想像に於ける二つの型に就いて（建林正喜）
- 徳川三大改革時代に於ける荒政（上田藤十郎）
- 電球工業の中心都市集積（菊田太郎）
- 小売商の将来（飯豊進）
- 小売商の将来（福井尚吾）
- 貿易統制について（小寺真寿治）
- 貿易統制について（富田重雄）
- 大阪に於ける重要産業（七條清則）
- 大阪に於ける紡績業（鐘紡）について（寺野文夫）
- 貿易統制と我国貿易の将来（渡邊達好）
- 小売商店経営合理化の根本問題（水上敏夫）
- ポスターの一般的機能（安達国男）

1) 昭和高等商業学校（以下、昭和高等と略記）の創設前後の概況については、三好信浩『日本商業教育発達史の研究』風間書房、2012年、380-384頁。また、大阪経済大学「経大70年史」編纂委員会『経大70年史資料集 第1集（学制関係1932～49）』（2001年）には、昭和高等の設立に関する文書、学則といった各種資料が含まれており、大阪経済大学創立50周年記念事業委員会『半世紀のあゆみ』（1983年）には、昭和高等の日常の活動の様子を伝える写真が掲載されている。

2) 「大阪経済大学論文総目録」『大阪経大論集』第100号、1974年。

税制改革と資金移動の変化（高橋進）
支那国内商業の現状（徳田清一）
浜の農村—伊予大三島盛口村盛部落の研究—（前田義一）
大阪市に於ける交通機関の発達と人口（森元梧楼）
研究部彙報

第2輯（1938年1月）

一般銀行の貸出拡張限度（大北文次郎）
静岡藩の組合商法会所及び常平倉について（上田藤十郎）
「封鎖商業国家」と封鎖的景気政策（建林正喜）
加賀藩財政史拾遺考—文化年度の財政状態とその一対策，並びに海保青陵の富国策との
関連について—（寺尾宏二）
露領極東の工業化（菊田太郎）
現代日本の物価問題（田中利直）
研究部彙報
読書の栞（三浦利定・米津次郎・上田藤十郎）

第3輯（1938年12月）

阿波池田の棟付改に就いて（上田藤十郎）
保管と倉庫に関する一考察（藤原光治郎）
使用者責任の要件について（河野實）
大阪に於ける青蓮院名目金の貸付について（寺尾宏二）
自然科学的方法の精髓と文化科学的方法の不成立 Rickert—左右田—杉村学説の黄昏
(2)（山田一雄）
戦時経済統制（田中博）
ワグナーの信用創造論（大北文次郎）
研究部彙報

第4輯（1939年12月）

北支洪水の原因と旧政権の治水事業（菊田太郎）
山口藩の人口調査と戸籍帳について（上田藤十郎）
無足人補考（寺尾宏二）
ハイエクに於ける節約（大北文次郎）
メレロウイツチの標準原価計算論（藤原光治郎）
支那に於ける英米の權益（中島靖夫）
価格統制に就いて（山崎一郎）
大阪のフェルト帽子業について（佐々木知祥）

大阪の酒価と酒問屋について（岡田則夫）
研究部彙報

第5輯（1941年2月）

滋賀県士族授産金を繞る問題（寺尾宏二）
重商主義と植民（高木真助）
支那鉱物資源の量と意義（菊田太郎）
和歌山藩の荒政（上田藤十郎）
アウトアルキイと人口問題（建林正喜）
数学史についての覚書—デカルトの方法を中心として—（近藤洋逸）
ミルトンに就いて（山村武雄）
ルナンの『イエス伝』（津田穰）
小売商免許制度を論ず（武田英之助）
我国対外貿易の伸張性—特に貿易政策を中心として—（新山栄一）
研究部彙報

（2）『昭和高商論叢』

第1輯（昭和高等商業学校創立十周年記念論文集）（1941年12月）

巻頭辞 創立十周年記念論文集刊行に題す（黒正巖）

第1部 商経篇

ゴツトルの労働観（藤原光治郎）
投資と貯蓄（大北文次郎）
交通と生産との相互作用（小泉功）
ゴツトルに於ける「経営」の概念（西川清治）
製造工業原価計算要綱について（西垣直記）
会津藩の荒政（上田藤十郎）
淮河下流地域の自然と経済（菊田太郎）
東亜共栄圏に於ける為替問題の所在（松井栄一）
支那に於ける国民経済建設事業—特に工業建設について—（支那経済研究所）
戦時下ドイツの食料問題—動物性食料を中心として—（建林正喜）

第2部 法律篇

土地の工作物から生ずる損害の賠償責任（河野實）
信義誠実の原則の発展（西島弥太郎）

第3部 文化篇

数学の方法について（近藤洋逸）
琵琶湖に於ける汽船の航行（寺尾宏二）

編輯後記（上田藤十郎）

第2輯 (1942年12月)

- 印度の村—Baden-Powell によれる— (菊田太郎)
 賃借権譲渡についての賃貸人の承諾をめぐる若干の問題 (河野實)
 津藩の義倉積立金 (上田藤十郎)
 エリオットのドライデン論 (山村武雄)
 福井藩の荒子組—特殊郷土制度の研究, 其二— (寺尾宏二)
 アルキメデスの求積法について (近藤洋逸)
 パスカルの『愛の情念の論』 (津田穰)
 日本軍需工業発展概史 (清水孝次郎)
 投資期間の延長と短縮 (大北文次郎)
 編輯後記 (編輯委員)

第3輯 (1943年8月)

- 権利構造論序説 (風間鶴寿)
 草奉行平松楽斎先生と骨董粥 (上田藤十郎)
 総力戦財政の基本的要請 (西川清治)
 孝明天皇の攘夷御祈願について (寺尾宏二)
 長期利率と短期利率 (大北文次郎)
 編輯後記 (編輯委員)

第4輯 (1944年9月)

- 現地自活論序説 (建林正喜)
 泰国通貨制度の東亜的展開過程 (松井栄一)
 公理的方法について (近藤洋逸)
 投資概念 (大北文次郎)
 ゴットルの存在論的価値判断の一吟味—ワイペルトの一労作の紹介を中心として— (西川清治)
 編輯後記 (西川生)

(3) 『昭和高等商業学校研究紀要』³⁾

第1号 上田藤十郎『徳川三大改革時代に於ける荒政』(1937年3月)

3) 第1号～第3号, 第5号～第9号は『昭和高等商業学校研究部報』に掲載された論考の抜刷, 第4号は『農業経済研究』第13巻第1号(1937年)の抜刷, 第10号は『学友会誌』第2号の抜刷である。『学友会誌』の現物を確認できてないが, 発行主体は昭和高等商業学校学友会であったと思われる。学友会は, 「昭和高等商業学校学友会規則」の「総則」によれば, 普通会员(生徒)と特別会員(職員)から構成され「会員ノ親睦ヲ図リ心身ノ修養ニ努メ協同自治ノ精神ヲ養ヒ以テ堅実ナル校風ヲ発揚センコトヲ期ス」とされた。そして, この目的を達するため, 研究部, 語学部, 音楽部な

- 第2号 建林正喜『アウタルキイの思想像に於ける二つの型に就いて』（1937年3月）
 第3号 菊田太郎『電球工業の中心都市集積』（1937年3月）
 第4号 高木真助『植民現象の二面性』（1937年5月）
 第5号 大北文次郎『一般銀行の貸出拡張限度』（1938年1月）
 第6号 上田藤十郎『静岡藩の組合商法会所及び常平倉について』（1938年1月）
 第7号 建林正喜『「封鎖商業国家」と封鎖的景気政策』（1938年1月）
 第8号 寺尾宏二『加賀藩財政史拾遺考—文化年度の財政状態とその一対策，並びに海保青陵の富国策との関連について—』（1938年1月）
 第9号 菊田太郎『露領極東の工業化』（1938年1月）
 第10号 中村清次郎『帝国憲法第八条の勅令に就て—緊急勅令論の再検討—』（1938年6月）

（4）昭和高商学報 附録⁴⁾

- 第1附録 上田藤十郎『阿波池田の棟付改に就いて』（1938年12月）
 第2附録 藤原光治郎『保管と倉庫に関する一考察』（1938年12月）
 第3附録 寺尾宏二『大阪に於ける青蓮院名目金の貸付について』（1938年12月）
 第4附録 山田一雄『自然科学的方法の精髓と文化科学的方法の不成立 Rickert—左右田—杉村学説の黄昏（2）』（1938年12月）
 第5附録 大北文次郎『ワグナーの信用創造論』（1938年12月）
 第6附録 上田藤十郎『氏子改制度について』（1939年2月）
 第7附録 菊田太郎『北支洪水の原因と旧政権の治水事業』（1939年12月）
 第8附録 上田藤十郎『山口藩の人口調査と戸籍帳について』（1939年12月）
 第9附録 寺尾宏二『無足人補考』（1938年12月）
 第10附録 大北文次郎『ハイエクに於ける節約』（1939年12月）
 第11附録 藤原光治郎『メレロウイツチの標準原価計算論』（1939年12月）
 第12附録 高木真助『古代植民の世界史的意義—植民段階論序説—』（1940年6月）
 第13附録 寺尾宏二『滋賀県士族授産金を繞る問題』（1941年2月）
 第14附録 菊田太郎『支那鉱物資源の量と意義』（1941年2月）
 第15附録 上田藤十郎『和歌山藩の荒政』（1941年2月）
 第16附録 建林正喜『アウタルキイと人口問題』（1941年2月）
 第17附録 近藤洋逸『数学史についての覚書—デカルトの方法を中心として—』（1941年2月）

ど14の部が設けられていた（『昭和高等商業学校一覧 自昭和12年4月至昭和13年3月』1937年，100—101頁）。

4) 第1～第5附録，第7～第11附録，第13～第17附録は、『昭和高等商業学校研究部報』に掲載された論考，第12附録は、『農業と経済』7巻7号（1940年）に掲載された論考，第18～第31附録は、『昭和高商論叢』に掲載された論考の抜刷の体裁をとっている。

- 第18附録 菊田太郎『印度の村—Baden-Powellによれる—』(1942年12月)
第19附録 河野實『賃借権譲渡についての賃貸人の承諾をめぐる若干の問題』(1942年12月)
第20附録 上田藤十郎『津藩の義倉積立金』(1942年12月)
第21附録 山村武雄『エリオットのドライデン論』(1942年12月)
第22附録 寺尾宏二『福井藩の荒子組—特殊郷士制度の研究, 其二—』(1942年12月)
第23附録 近藤洋逸『アルキメデスの求積法について』(1942年12月)
第24附録 津田穰『パスカルの『愛の情念の論』』(1942年12月)
第25附録 清水孝次郎『日本軍需工業発展概史』(1942年12月)
第26附録 大北文次郎『投資期間の延長と短縮』(1942年12月)
第27附録 風間鶴寿『権利構造論序説』(1943年9月)
第28附録 上田藤十郎『草奉行平松楽齋先生と骨董粥』(1943年9月)
第29附録 西川清治『総力戦財政の基本的要請』(1943年9月)
第30附録 寺尾宏二『孝明天皇の攘夷御祈願について』(1943年9月)
第31附録 大北文次郎『長期利率と短期利率』(1943年9月)

(5) 学校の概要, 図書目録

『昭和高等商業学校一覧 自昭和11年4月至昭和12年3月』(1936年)

『昭和高等商業学校一覧 自昭和12年4月至昭和13年3月』(1937年)

『昭和高等商業学校一覧 自昭和14年4月至昭和15年3月』(1939年)

『昭和高等商業学校一覧 昭和17年度』(1942年)

『昭和高等商業学校図書目録 (昭和12年6月30日現在)』(1937年)

(本稿は、2020年度および2021年度大阪経済大学教育改革支援研究費(「大阪経済大学史編纂に向けた基礎的研究—資料, モノ, 人物からの接近—」)による成果の一部である。)